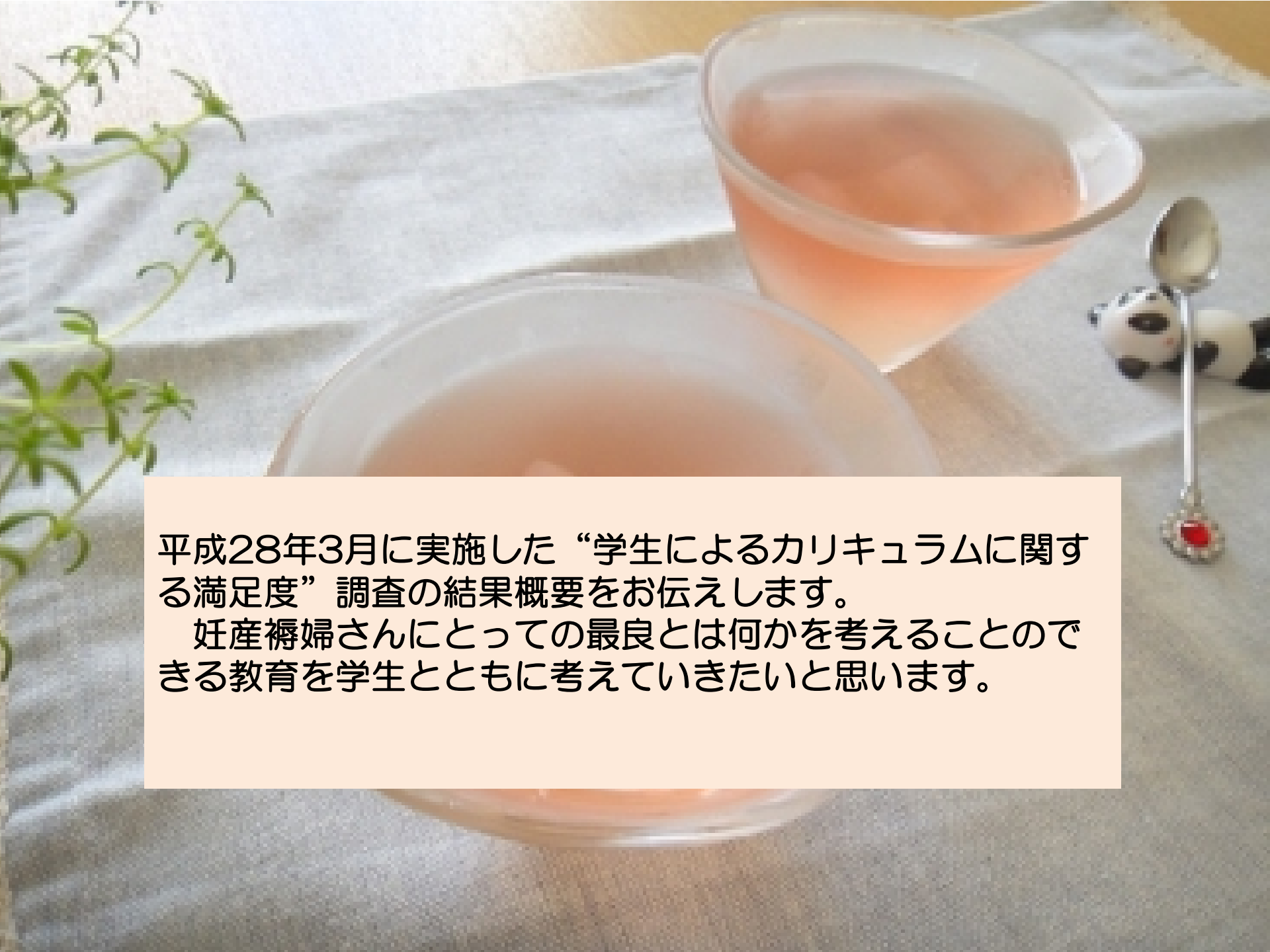


養成所評価結果の概要
(学生によるカリキュラム満足度)

助産学科



平成28年3月に実施した“学生によるカリキュラムに関する満足度”調査の結果概要をお伝えします。

妊産褥婦さんにとっての最良とは何かを考えることのできる教育を学生とともに考えていきたいと思えます。

学生によるカリキュラムに関する満足度の評価項目

1. 教育方針は明確に指示されている(3.8)
2. 教育方針は明確に指示されている(3.6)
3. 助産診断・技術学の教育内容に満足している(3.9)
4. 地域母子保健の教育内容に満足している(3.4)
5. 助産管理の教育内容に満足している(3.2)
6. 実習の教育内容に満足している(3.8)
7. わかりやすい授業が多い(3.5)
8. 専門的な知識が身につく(3.8)
9. 専門的な技術が身につく(3.8)
10. シラバスと実際の授業に内容は概ね一致している(3.6)
11. 学習するための教材及び図書は十分である(3.4)
12. 個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている(3.5)
13. 健康管理体制に満足している(3.6)
14. 課外活動に満足している(3.6)
15. カリキュラムに対して評価する機会が与えられている(3.8)
16. 学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい(3.5)
17. 全体的にみて、本校で学んだことに満足している(4.0)

【4段階評価】

4：大いにそう思う　3：そう思う　2：ややそう思う　1：全くそう思わない

調査結果の概要と課題（1）

11. 学習するための教材及び図書は十分である

調査結果（平均値：3.4）と課題

昨年度は1.9と最も低く図書の利用のしづらさがあった。本年度は、調べたい時に身近に図書を利用できるようにしたこと、活用できる図書を具体的に提示したことで、学習効果が上がったと学生たちは述べている。

今後も、学生の意見を取り入れ、学習効果が上がる図書の利用を図っていきたい

調査結果の概要と課題（2）

5. 助産管理の教育内容に満足している

調査結果（平均値：3.1）と課題

助産管理実習は助産院3施設でおこなっています。助産院では助産師本来の機能や役割が学んでいます。しかし、助産院の特徴から、昼夜を問わず妊産褥婦に対応し、早朝からの実習になることも多く、学習時間の確保が困難な状況があった。

実習をとおして、助産院の経営を学生たちは学んでいた。宿泊をとまなう実習であるため、学習時間を確保できるよう施設と調整をはかるとともに、学生相互で見学等の工夫をすることで、疲労の軽減に務めたい。

調査結果の概要と課題（3）

14. 課外活動に満足している

調査結果（平均値：3.6）と課題

昨年は2.3であった。助産学科は1年で課程が修了すること、及び分娩のオンコールもあり、課外活動に費やす時間が充分にとれない現状ではある。学生は限られた時間で積極的に活動していた。

学生フォーラム・オープンスクールに参加くださった方に満足してもらえた。これらの活動は、集団教育の企画運営力につながることを学生とともに考える機会であり、充実感が持てた要因であったと考える。

調査結果の概要と課題（４）

- 8. 専門的な知識が身につく
- 9. 専門的な技術が身につく
- 17. 全体的にみて、本校で学んだことに満足している

調査結果（平均値：3.8～4.0）と課題

専門的な知識や技術を身につけることは、より専門性を追求する助産学科では中核となるものである。「母体急変時の初期対応」「入院時の電話対応」等のロールプレイや臨床を想定した演習を多く取り入れた。結果、学生の満足度は高かった。

国家試験は合格率100%を維持している。より専門的な教育内容で理解が深められるよう、充実していきたい。